

平成 21 年 7 月 31 日

成 19 年 (ワ) 第 1904 号 第 4279 号

## ボランティア基金返還等請求事件関わる陳述書

大阪地方裁判所民事第 2 部 御中

この陳述書の内容は事実と相違ありません。

申立人 原告 2 次の 1 溝 口 印

### 1. 支援をしたきっかけ

ひろしま DP 事件が起きた当時、愛犬を病気や事故で立て続けに亡くしペットロスに陥っていた私は、ぼっかりと開いてしまった心の穴に苦悩しておりました。

その穴を埋めるべく、自分にできることはないかと模索するなかでいろいろな動物保護団体のサイトも見ていました。

2006 年 9 月 17 日、ある動物保護団体のサイトで「緊急!広島ドックパーク崩壊!!」の記事を目にしました。

そこにリンクされていた「アーク・エンジェルズ」(以下 AA と表記します)のホームページに飛んだとたん、私の目に、がりがりにやせ衰えたイングリッシュセッターの姿が飛び込んできたのです。

我が家にも野良犬だったイングリッシュセッターがいます。胸が張り裂けんばかりの衝動が走りました。

「なんとかしなくちゃ・・・。」

レスキューに着手した「AA」という愛護団体が私の家から近いこと、またその週の日曜日 9 月 24 日にバザーと譲渡会をひらくことをホームページで知った私は、「主人になんと言おう...」と悩みなながらも、「いつかうちの子達を連れて田舎に移り住もう」とこつこつ貯めていたお金を寄付しようと決めていました。

### 2. 支援の実際

譲渡会当日、事務所には里親希望の方や支援者の方がたくさん来ておられました。

事務所は店舗のようになっていて店先、店内には大量の様々な犬用品が並べられてありました。店内の奥にカウンター様の机がしつらえられ、声のよく通る女性が里親希望の方に「希望した犬には希望者がたくさんいるので必ずしも期待には添えない。」等、声高に説明していました。(後にこの女性が林加津子氏であると知ります。)

レジスターの横には、所在なげにタバコをふかしぼんやりしている男性が座っていました。(後にこの男性が林俊彦氏であると知ります。)

私はごった返した店内で、ホストファミリー登録の順番待ちの間、支援の足しになるかとバザーに出されていた在庫すべての消臭剤や、正規で買えば高価なペット用のドライシャンプー等かなりの量を購入しました。それらは現在まだ家に在庫があります。

清算をボランティアの女の子にお願いしたら、目を丸くしてあわてて電卓を探し回って汗をかきながら計算してくれました。総額は2万円ほどだったとおもいます。

「おつりは募金箱に入れてくださいね。」と言ったら、それは素敵な笑顔で「ありがとうございます。」とお礼を言ってくれました。

そのときレジスターはありましたが、レシートはもらわなかったように思います。領収書はいりますかとボランティアの女の子に聞かれ必要ないと答えました。

順番が来てホストファミリーの登録を済ませ、林加津子氏に現金100万円入りの封筒を手渡しました。彼女は「まあ、ほんとにありがとうございます。」等々礼を述べられ受取られました。

しかし、封筒の中身をその場で確認することはなく、領収書が必要か否かもきかれませんでした。

「ホストとして犬を迎え入れる準備をしておくのでいつでもご連絡ください。」と言って主人と事務所を後にしました。

3メートルほど歩いたところで、先ほどタバコをふかし所在なさげにしていた男性に慌てた様子で呼び止められ、名刺を手渡されました。

そこで初めてその男性が、AAの代表者の林俊彦氏であることを知りました。名刺には「動物愛護団体(大阪市認証団体 第1号)」とありましたので、しっかりした団体なのだなどそのときは感じました。

彼は「たいへんな金額をありがとうございます。あの子達の医療費に使わせていただきます。」等述べられました。

自分のうちの犬の医療費でさえかなりの金額がかかります。

「砂漠に水を撒くような金額でしかないですが、混乱のさなか現金は必要でしょう。よろしくお願いします。」本当にあのときは、心からそう言えたのです。

### 3. その後の支援

私は譲渡会後もなにか落ち着かず、あくる次の日9月25日も仕事が終わってから「AA」の大阪事務所を訪ねました。

すると、スタッフの関さんという方が出てこられました。

私は「なにかお手伝いできることはないか、緊急に必要なものはないか。」と尋ねました。

関さんは一度事務所内に入られてから「ボルゾイでも飛び越えられないような大型犬用のサークルが欲しい。」と答えられました。

帰宅してから現地でボランティアされている方々のブログ読んでまわり、今何が必要か

をチェックして早速次の日の9月26日、いつも利用している動物用品の店に電話して、

大型サークル 5 基	274000 円
中型犬くらいまでなら使えるサークル 30 基	165300 円
フードボール 300 個	42000 円
給水器 300 個	240890 円

総額 722190 円分を手配しました。

その後、AA のアドレスからスタッフの辻田さんという方の記名入りで「現地からの連絡があり、何々をお願いしたい。」というメールが届きました。

10月2日にはペット用の爪きりの支援要請があり、

爪きり 20 個	40130 円
止血剤 10 個	29400 円

総額 69530 円分を手配。

10月10日には洗濯乾燥機の支援要請があり

全自動洗濯乾燥機 5 台	134000 円
洗濯機用防水コード 4 本	5600 円

総額 139600 円分を手配しました。

従いまして、物資の支援金総額は 931320 円になります。

支援物資の詳細、金額、証拠等は別添の被害届にまとめてあります。

#### 4. 広島ドッグパークでのボランティア体験

私は仕事があるため広島の現地に行けず、いろいろなボランティアさん達から刻々と寄せられる現地報告をブログや2チャンネル等で確認するしか術がなく、地に足が着いていないような焦燥感に苛まれる日々が続きました。

ネット上にはいろいろな不穏な情報も流れてきはじめました。この情報を知るにつけ「何か大きなミスをしたのではないか」という不安が焦燥感に拍車をかけました。この目で確かめるしかない……。

やせ衰えた犬達をネットで目にしてから一ヶ月余り。

やっとの思いで仕事の都合をつけ一週間の休みを取った私は、広島へ向けて単身車で出発しました。

滞在期間は 2006 年 10 月 29 日(日)から 11 月 5 日(日)までです。

10月29日正午頃現地に到着。

広島ドッグパーク敷地内の急なスロープの途中に、物資置き場とよばれる建物がありました。

そこに数人の人がおりましたので、事務所はどこかと訊ねました。男性のひとりが何? と不審げに問いますので、なるべく親しげに「大阪からボラに来たんよ!」と答えましたところ、上を指差しましたので車を進めました。

頂上に着くとゲートがあり、男性が入り口のドッグパーク営業時はもぎりであったろう場所にひじを付いてこちらをじろじろ眺めていました。

このスタッフの男性も、対応の悪さをネット上で指摘されていました。身体的特徴がありすぐその男性だとわかりました。

ネットでの指摘のとおり態度があまりに尊大だったので、すこし気分を害し「大阪から来てんけど、林さんから聞いてないの?」とカマをかけると、たちまちおもねるような態度にかわりました。

事前にAAのアドレスに広島へ行くことをメールで伝えてあり、直前に林加津子氏から「関を訪ねて。泊まる所もあるから。」と携帯に電話をもらっていたので事務所に関さんを訪ねました。

ネット上では「AA」の宿泊施設に泊まると、宿泊費用分の寄付を強要されたとの情報がありました。

確認したい気持ちもありましたが、「夜は仕事の指示や手配をしなければならないので、廿日市の商人宿に滞在しパークまで通うことにしました。」と関さんに伝えました。

関さんは林加津子氏から私の宿泊準備を指示されていたのか、少し戸惑った様子でした。彼女からはボランティアするに当たって、説明や指示をうけることはありませんでした。

広島入り直前にあちこちのブログで、現地にトリマーがはず、シャンプーや薬浴ができないでいるとのSOS情報がありました。

私はプロトリマーではありませんが自分の犬はセルフシャンプー、セルフカットしていますし、大型犬から小型犬まで飼っていますので、十分対処できると思い「トリミングルームのボランティアにはいります。」と関さんに伝えました。

詳しいことはリーダーの山口さんという若い女性に聞いてくれということでした。

## 5. 現地の様子

山口さんはとても丁寧に園内の配置や区分け、作業の手順や流れ、ゴミ捨て場の場所、取り急ぎのタオルやフードの物資の置いてある場所、A1, A2, A3の犬の区分や場所、園内に入るときの靴の消毒方法、犬に触れる際の手の消毒方法、消毒液の作り方等と一緒に園内を回り詳しく教えてくれました。

犬の区分で罹患の酷い隔離、感染症罹患犬のいる隔離の隔離、パピールームというところがあり、ここは担当者以外立ち入り禁止という張り紙がしてありました。

ゴミ捨て場は園の奥に可燃、不燃等にコンパネで仕切られ、頭数の多さを物語るような大量のゴミ袋が積みあがっていました。

さらにその奥に、HPやTVでセンセーショナルに取り上げられたボロボロのバリケンの山がありました。

当座の物資置き場は広い体育館のような場所で、整然とりネン関係、フードもメーカー一別にきれいに整理されており、ブログ等で読んでいた物資ボランティアさんのご苦労

が偲ばれました。

後に必要なものがあり判明したのですが、物資関係を把握しているのはスタッフでは藤井さんだけのようでした。

全体をひとわり見て歩き、各部署に担当スタッフがいて指示しているのではなく、来園頻度によってボランティアさん同士でリーダーが暫定的に決められ、各部署で自治しているような印象をもちました。

到着当日は昼過ぎということもあり、園内ではボランティアの方々が担当犬を散歩させたり、抱いて日向ぼっこをさせていたり、元気の有り余る犬にしつけをいれていたりしました。

どなたもそれはそれは慈しんで犬達のお世話をされており、当初の悲壮な環境からは想像もつかない穏やかな空気が流れていました。

直接犬に関わらない場所でも、電気関係のお仕事をされている方でしょうか、小学生くらいのお子さんとただ二人、冬を迎えるにあたって壊れているエアコンを直すためと思われる作業をされている男性や、皆が嫌がる雑仕事、汚れ仕事を一人で黙々とこなしている老齢の男性もおられました。

「この事件は広島の恥じゃけえ」とおっしゃっていたのが印象的でした。

## 6. 担当部署の様子

トリミング室はあわただしかった頃の名残でしょうか、すべてが乱雑に放置され滅茶苦茶な状態でしたのでまず片付けと整理を始めました。

一人で結構広いトリミング室を片付けるのは骨が折れましたが、おかげで初日に何がどこにあるか把握することができました。

すでに10月21日・22日と現地で大々的に譲渡会が行われた後で、両日で319頭譲渡されたと広島支部長のブログで報告されていました。

現地に入った時点での総残頭数は分かりませんでした。が、順次譲渡されているようで70～80頭ほどだったと思います。

設備の整ったここなら、帰るまでにかかなりの頭数は洗ってあげられそうだと感じました。

各部署担当のリーダーさんを訪ねて、それぞれシャンプーや薬浴の必要な犬の一覧と、皮膚の状態による優先順位をつけたリストを作成してくれるようお願いしました。

二日目の午後からは、はるばる埼玉からトリマーの卵の女の子がトリマー不足を聞きつけてやってきてくれました。

リーダーさんから届けられたリストをトリミング室のガラスに貼り付け、各部署にメモをもって順番の子を迎えに行き、洗い終わった子のリストをチェック、各部署に返す。という作業を二人で汗だくになりながらこなしました。

埼玉の女の子は水曜日には帰るので、なるべくたくさん洗ってあげられるよう頑張りますと張り切ってくれました。

やはりトリマー不足を聞きつけて、木曜日以降には明石や東京、香川からもトリマーさんが駆けつけてくれ、最終日にはリストアップされた犬を、ほぼ洗い終わることができました。

ボランティアさんは一般の愛犬家の方がほとんどで、犬の行動や医療的なケアについての専門的な知識はなく、ご自身で飼い犬のシャンプーをしたことがない方も多くおられましたので、今後トリマーがいない時でも犬達を洗ってあげられるよう希望者を募り、東京のトリマーさんがシャンプー講座を開いてくださいました。

シャンプーをした犬達についてですが、たいがいの犬は歯石を取ったり耳掃除をととも嫌がるものなのですが、どの犬もけっして唸ったり歯を剥いたりすることなく処置させてくれました。

小型犬～中型犬はがりがりというより、痩せている子はいましたが大半はどちらかというによく身が入っているという印象でした。

大型犬はかなり痩せている、成長過程の栄養不足で標準よりかなり小さいという印象をもちました。

やはり総体的に疥癬等の影響で皮膚の状態は悪く、落ち着いた環境でターンオーバーさせる必要があると感じました。

## 7. AA スタッフの様子

仕事柄朝の早い私は滞在中午前六時には宿を出発し、道中のコンビニで朝食を買い午前七時頃には園入り口前の駐車場で待機しているといった毎日でした。

常連のボランティアの方々は、八時頃には車の陰で着替えて静かにスタンバイされていました。

朝早くにスタッフの出勤を見たのは、車でスロープを登っているとき、関さんがお気に入り犬をノーリードで散歩させているところに出くわした一度きりでした。

園のゲート前にはボランティア受付カウンターがあり、そこに記名、担当部署を書くシステムになっているようでしたが、それを説明するスタッフはいませんでした。

遠くから来られて朝早く到着し初めてボランティアに来園した方が、たいへん困っている場面に何度も遭遇しました。

何かできることは無いのかという焦燥感私もよく分かりますので、たとえ一日しかボランティアできなくても、何かを得て帰って欲しいという思いから、できる限りそんな方をサポートするようにしました。

朝はトリミング室前エリアの A1 と呼ばれる比較的健康な小型犬の朝食、排泄物の処理から始まりました。

山口さんの指示のもと、初めてのボランティア参加者も含めて、比較的スムーズに事は運ばれていきました。

食事速度の極端に遅い子、臭いの気になる子がいたのでチェックしておき、ひと段落

付いた後山口さんに把握しているか尋ねました。

残念ながら気づいていないということでしたので、再度その子達をチェックし歯石沈着が酷すぎてうまく咀嚼できないので、小粒のフードに変えるべきであること、重度の外耳炎の子がいるので医師にみせるべきであることを伝えました。

物資には大量のアレルギー対応フードや療養食もあるのに、個別の症状に合わせたフードが使われていないことにも疑問を感じました。

小粒フードについては山口さんで判断対処できるが、医者となると事務所に聞かないとなんともいえないとのことでした。

林俊彦氏、加津子氏両名が不在ということもあり、関さんはスタッフの山辺君が犬のスペシャリストだからと軽い調子で笑いながらこの問題を山辺氏にふりました。

山辺氏は訴えを聞いていましたが、判断できずに「犬はいいけど人間は嫌いなんや。」等々つぶやきながらどこかへ行ってしまいました。

「えっ、この人たちは本当に愛護団体のスタッフなの?」と驚いてしまいました。

トリミング室を整理したとき、ドルバロンというステロイドと抗生物質の塗り薬があったので、医者にかかるまでの応急手当として、薬用シャンプーのノルバサン希釈液でミミダレを洗い流しドルバロンを点耳することにしました。

歯石のほうは、おいおいシャンプー時にスケラーか鉗子で除去しようと考えました。

一週間の滞在の間、多数獣医師が訪れるイベント的な日以外は、林俊彦・加津子氏両名がパーク内でなにか作業しているといった姿は見かけませんでした。

用事で事務所を訪ねた時、よく林俊彦氏はデスクで何かに夢中で見入っていました。埼玉から獣医師夫妻が、非常に状態の悪い小型犬の里親となり自ら引き取りにいらしたときも、林加津子氏がこのご夫婦に挨拶するように促したにもかかわらず、上の空で生返事していたのが印象的です。

スタッフの男性陣はパーク内の大規模な消毒作業、ボランティアリーダーを集めてのミーティング等で姿を見ましたが、積極的にボランティアの方々と関わっている様子はみかけませんでした。

スタッフの藤井さんは物資担当なのか、まめに下の倉庫から上の倉庫への移送をされており、他の男性陣よりはボランティアの方々と上手くやっているように思いました。

単管を手際よく組み立てるなど力仕事をされている姿をよく見かけ、その手は痛んでテーピングだらけでした。

女性スタッフで表立って日々の作業に関わっていたのは、山口さんだけの印象があります。

他に4~5人位、揃いの「AA」ロゴ入りツナギを着た若い女性達いましたが、山口さんだけ着の身着のままのジャージ姿でした。

ですから一番長くいるボランティアなのでリーダーと呼ばれているのかと思ってい

ましたが当時の彼女の立場がどうだったのかはよくわかりません。

後にパーク内でのTVの記者会見時に、林兩名と同じテーブルについていたのでスタッフだったのかと驚いた記憶があります。

関さんや安田さん、理事に名のあがっていたパソコン担当の女性を除いては、他の揃いのツナギを着た女性達がスタッフだったのかどうか私にはわかりません。

彼女たちは汚れ仕事を嫌そうに少しだけさわってどこかへ行ってしまったり、ボランティアの人を見下すような言動をとったり、事務所内にたむろして里親希望者のアンケート用紙を回し読みし、記載内容(かなり細かく個人情報に記載されています)を読んでは希望者を小ばかにしたりといった特権階級然とした態度の悪さが印象にあります。

私は従業員を使う側の人間で、従業員の体質や言動は代表者の責任であると自負しておりますので、同じ事務所内にいながら注意、指導を行わない林兩名に対し釈然としない感を持ちました。

総体的に見て、「AA及び林兩名」は手を汚し、体を使うところは放置放任、ボランティア同士の混乱もノータッチでありながら、何かを購入する、病院へ行くといった金銭の絡むことに対しては、それを声高に望むと粛清を受けるかのごとくボランティア側は声をひそめるといった「独裁的」な感じを受けました。

## 8. 支援した物資の様子

自分が送った物資についての取り扱いについての感想も述べたいと思います。

トリミング室を片付けているとき、カウンターの下に無造作につっこんである大きなダンボール箱が2つありました。

開けてみると大量のバリカンとともに、大量の爪きりが入っていました。私が送ったのもプロ用のものでしたので、こんなにあるなら必要なかったのではと思いました。

メーカーのシールで自分が送ったとわかる300個ものフードボールは使われることなく洗い場に乱雑に放置されていて、少し悲しくなり自分で洗ってビニールに納め片付けました。

ここまでは当初の混乱のせいと納得することはできます。

洗濯機が欲しいと要請があったとき、「必要金額を振り込むから現地で購入したほうが早いのでは。」と返信メールを送ったところ「現地には買うところがないし買いに行く暇も無いねん。汚れた靴下をずっと履き続けているのよ〜。」と林加津子氏から電話がありました。

その言葉に(あれ?犬達のための要請じゃないの?)と一瞬思いましたが、泊り込みの方たちのためにも必要だろうと自分を納得させ、また本来の目的である犬達のタオルや衣服等を洗うには台数が必要だろうと合計5台送りました。

しかし現地で私が目視したのは1台だけ。トリミング室の裏に電源に繋がれることもなく放置され、コケが生えていました。のちに隔離室の裏にも1台放置されていたとの



情報がありました。

宿舎へは行ってないので私は確認できていませんが、そちらには私の送ったものではないドラム式の高級洗濯乾燥機が使われていたとの情報もあったと記憶しています。

支援した小さいほうのサークルは日向ぼっこ用に 8 基ほどが使われていました。

しかしボルゾイが飛び越えられないくらい大きなものをと要請されたサークルは、1 基梱包されたまま建物の外に放置してある他は、使用しているのを見かけませんでした。

何よりドッグパーク内には大型犬用の立派な犬舎が、施設としてもともと存在していました。

後に 1 基 5 万円するこのサークルと同様の物を、滋賀シェルターでゴミ置き場として使用しているのを見たときは情けない気持ちになりました。

## 9. 原告になった経緯

実は私は懲りもせず、実際に現地に入りネットで噂されているような悪評が偏った意見や評判であるのならば支援を続けよう、今度は人間をねぎらうために使ってもらおうと 30 万円を持参していました。

しかし到底有効に使われるとは思えなく、残念ながら手渡すことなく広島を後にしました。

広島から帰阪してからは、東京譲渡会の中止、パークでのボランティアとスタッフの暴行騒ぎ、広島からの撤退といった騒動をネット上で確認するだけでした。

広島撤退の頃、加津子氏から「岡山に山は持っているけどライフライン設備がないのよ。土地を探しているのでお知り合いがいたら紹介して欲しいの。」と電話がかかってきました。

金額の話はでませんでした。私は知り合いも山はもっているが、同じくライフラインは無いと答えました。

年も押し迫った頃、AA から離れた元スタッフの方からメールが来ました。

その頃「大阪市認証第一号」と詐称したため AA は大阪市の動物管理センター(以下動管と表記します)を出入り禁止になっていました。

動管から犬を引き出して助けて。ついては支援してくれないかということでした。年が明け、具体的にどう動くかの形もでき、寄付金を募らずやりたいという元スタッフの意を受けて、それから半年間、軌道に乗り寄付金を募らずともバザー等で活動費をまかない運営できる形になるよう支援を続けました。

平成 19 年 2 月に鎌田さんが裁判を起こしたとき、原告対象者は支援金返還組戻拒否された人が対象でした。

4 月に入り、原告募集対象者の範囲が広がったことを知った元スタッフは「現金手渡しのとときに自分達はキッチンにいたけれども、そのあと加津子氏がすごい支援者さんが

きはったで。と封筒をみせたのでみんな札束で叩いて～とか言ってはしゃいだのをよく覚えている。自分達が手渡しの事実の証人になるから原告にならないか。」と持ちかけてきました。

裁判など自分の人生には無縁だと思っていましたし、正直もう AA と関わりたくないわずらわしい気持ちがありました。

しかし元スタッフ達から聞くおよそ愛護とかけ離れた林兩名の人となり、元スタッフや犬に対する仕打ち、もうあの人たちには絶対犬を扱って欲しくないという元スタッフ達の強い気持ちに後押しされるように、二次原告に加わりました。

## 10. 原告に名乗りを上げた後の妨害

原告に加わったとたん、当事は携帯電話しか持っていなかったもので、携帯メールにそれまで一通もこなかった迷惑メールがき始めました。

とくに毎回裁判一週間前頃から、受信拒否が追いつかないほどあちこちから送られてきました。現在も受信拒否しているドメインは100近いです。

2年前元 AA スタッフと活動を共にするころ初めてパソコンを購入し、いままで大丈夫だったのですが、今年 2009 年の 5 月末頃どこからアドレスがもれたのか、パソコンにも大量の迷惑メールがくるようになりました。

## 11. AA に対して思うこと

裁判開始からこれまで我々原告は数々の情報開示の要求をしてきました。

しかし、今まで AA から情報開示要求に応じて出されるものは、全て逆算の数字合わせに終始しているように感じました。

なぜ、すべての金銭の流れを正々堂々と開示できないのか。

私は自営という仕事柄、節税という大義名分のもと慣例となっている金銭や税務の処理、領収書の処理等があるのを知っています。

しかし仮にも AA は愛護団体を名乗っています。自営業、なりわいではないと自ら謳っているのです。

AA はスタッフから意見があがってもなぜか会計報告義務のある NPO 法人化を避けてきています。

自身が清廉潔白かつこれからも動物愛護を推進していくというのなら、まず大阪市認証第一号や虐待監視委員会等、自称の肩書きで身を固める前にとるべきアクションをなぜとらないのか非常に疑問に思います。

現在も医療費等に多大な費用がかかると、HP に書かれ支援金要請を続けています。

活動日誌を読む限り、表の顔はいたって誠実な活動をしているように見えます。しかし相変わらず不明瞭な会計報告は続いています。

私も実際に全額自費で保護活動をしましたので、何にいくらかかるかは経験しています。

全頭に登録，各種ワクチン，去勢避妊手術，疾病の治療，預かりさんへのフードやペットシート提供等，ガソリン代，高速代，たしかに大変でしたが一個人がやってやれないことではありませんでした。

元スタッフの方々をはじめ誤解されている方が多かったのですが，決して私は金持ちではありません。

ただサラリーマンと違い身を粉にして動いた分だけ収入になる職人であり，子供がおらず，たまたま田舎へ移住するための貯金を始めていて，主人の深い理解があっただけです。

自分で保護活動をしてみていちばん実感したのは，金銭よりもなによりも動物を救いたいという人々の協力，尽力がなければ動物愛護は成り立つものではないということでした。

ボランティアやスタッフの定着しない AA の運営は，林両名の愛護活動に対する姿勢を如実に物語っていると思えてなりません。

支援金を募り活動しているほかの愛護団体でも，誠意，誠実，感謝を持って明朗な会計報告をしている団体はあります。

しかし高級そうな家具を好んで置き，頻繁に家電を使い捨て，レスキューに関係するとは思えない大型バイクを購入する AA は，とても支援金を声高に募る愛護団体の姿には見えないのです。

林氏は飼い犬を通じて愛護の世界を知ったと聞いています。

そして奇しくも次々と現れるブランド犬の保護や古参の動物愛護団体に出入りするうち，動物愛護はただで使える人が集まりけっこう金銭が動くのだと実感し，持ち前の商才が頭をもたげたのではないのでしょうか。

広島ドッグパーク以前のレスキュー劇で，その強引さは可哀想な犬を助けたいが非力を感じている人々に，さぞ頼もしく映ったことでしょう。

犬が助けられさえすれば，何かの間違っている気がしても「見ざる聞かざる言わざる」の人々を従え，いままで通り，否今まで以上の「勝算」をもって広島へ乗り込んだ。そしてその「勝算」は巨額の支援金を産み出し現実のものとなりました。

しかし，愛護活動を支える力のベースは「人の想い」であるということ蔑ろにしてきた結果次々と不信感が支援した者から湧き上がってきたのです。

死亡した犬に対する取り扱いも不審な事が多く様々な疑惑を呼びました。

前管理者がパークの敷地内に埋めた犬を一度確認のため掘り起こし，TV カメラの前でパフォーマンス的に掘り起こすためわざわざ埋め戻した事がありました。

某芸能人の来園時，花々に囲まれた祭壇で人々の涙と弔問をうけた犬がいますが，その犬はその 5 日前にパークで死亡，何故か大阪で冷凍保存されその日に合わせるかのようになり広島に戻されました。

そうした目立つ行為の陰で、衰弱した体で広島から大阪間の長距離移送に耐え切れず車中で絶命し、大阪事務所の床の隅に花ひとつ無くブルーシートに包み置かれている犬もいました。

犬の心身状態への配慮の無さにも批判の声は上がりました。

間近に犬に接しているボランティアからの病院搬送要請や医療ケア物資の使用要請に耳をかさず、AA独自の「犬を扱いなれている、多数の犬を救ってきた。」という自信からくる生兵法的な医療処置や判断をされ、結果失われずともよかった命を落とした犬達があります。

また、ホストファミリー宅へ移り、夜鳴き、分離不安、神経性下痢といった数々の問題をホストの「渾身の介護」のもとようやく改善しつつあったにもかかわらず、再びマンツーマンではケアのできない、夜は「一人ぼっち」のパークへ強制送還された犬達があります。この時、強制送還を断固拒否した大阪事務所のスタッフ達は林氏から即日出入り禁止を言い渡されています。

物資の取り扱いについても、ボランティアがきちんと整理して帰ったはずのものが翌朝来てみると物色され散らかっていたり捨てられていたりということがあったと情報があります。

現金手渡しや現金書留などは大阪事務所においては加津子氏用缶箱にスタッフが日付と名前を記入し入れておくルールがあったそうです。

広島においてはゲートに透明の募金箱が置いてあり常に半分ほど札を交えて現金が入っていましたし、事務所には700位のゴミ箱がありそこに現金が3分の2ほど無造作に入っていたと聞きました。

それらはきちんと集計され収支報告にあがっているのでしょうか。

林ご両名は、募金振込みや支援物資に添えられた切々としたメッセージを「全部」読まれましたか。

たとえひとりひとりの金額は少なくても、その思いの集合体が億を超える巨額の支援金となり、支援物資がペットシートひとつ、ドッグフード一袋であっても雨の一粒が大河となるがごとく倉庫に溢れ返ったのです。

どれをとってもパークの犬のために良かれと送られた「思い」です。

ずさんな現金の扱い、広島撤退後の園内に打ち捨てられていた千羽鶴や夜逃げの跡のように乱雑に放置されていた支援物資。

支援者の思いをきちんと受け止めているならとてもできない行為だと思います。

それらを適正に誠実に使用するのが支援要請した者の責務なのではないでしょうか。

## 12. この裁判に望むこと

この裁判以降、他の保護団体の支援金が激減していると聞きます。

それはこの裁判をとおして明らかになる AA の言動に、愛護活動や団体全般においても善意や正義を謳いながら巧妙に不適切な使用をしているのではないかと、そういった疑問や不信感を人々が持つようになってしまったからではないでしょうか。

原告として名乗りを上げずともおよそ 300 人近い人々が、AA の支援金の扱いに納得できず、組戻しを行ったことなどその顕著な例だと思います。

AA の本当の目的は動物愛護活動などではなく「哀れなワンちゃん」を看板に募金で生計をたてることなのだと思います。人の心よりも何よりも「お金と物財」が一番大事なのです。

しかし AA はその正体を隠し、マスコミやネットを駆使し、手の込んだ派手なレスキュー劇を演出し、AA こそが真の動物救済者であると思込ませて寄付金や支援物資を募り、実際には支援者の想いとは裏腹な、不明朗で不誠実な金銭や物資の取り扱いをしているのです。

そのような AA のやり方は社会正義的に許されるものではありません。

動物愛護だけにかかわらず「人の善意」に「巣食う」輩は日本全国で仮面を被りその機会を窺っていることでしょう。

前例が無いとされるこの裁判は、結果如何でそういった者達への強靱な警告、判例となりうると思っています。

裁判所におかれましては、今後私たち同様、善意を土足で踏みにじられ心に深い傷を負う犠牲者が出ることをないよう、また誠心誠意活動されている方々が障害無く活動できるよう、そしてなにより慈愛の心を育むべき子供達に堂々と胸をはり互助の心、人の善性を説けますよう、AA の反社会性を厳正に裁いていただけます事を願ってやみません。